

SDGsへの取り組みを通じて地域の課題解決に貢献

一般社団法人全国地方銀行協会

■SDGsを原動力とした地方創生へ

全国地方銀行協会は、地方銀行の健全な発展を通じて地域の課題解決や企業価値向上を図り、地域経済の持続的発展に貢献することを目指す団体です。現在、地方銀行63行が加盟しています(2020年12月時点)。

地域経済は人口減少や少子高齢化など、社会構造の大きな変化に直面しています。社会課題の解決と経済成長の両立を追求するSDGsと、地方の人口減少に歯止めをかけ、住民一人ひとりが夢や希望を持ち、豊かな生活を安心して営むことができる地域社会の形成を目指す地方創生は相通じるものがあり、SDGsの推進が地域活性化の原動力になることが期待されています。

同協会は、2019年度より事業計画に「SDGs／ESGへの取り組み」を掲げ、その方針に沿った取り組みを積極的に展開しています。また、2020年6月には、TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言への賛同を表明し、環境や気候変動問題に対して積極的に取り組む姿勢を打ち出しています。

■【取組例1】啓発パンフレットで分かりやすく解説

持続可能な社会の実現に向けたニーズ・関心の高まりにより、中小企業においてもSDGs視点で経営を行うことで、環境・社会問題に係るリスクを回避するとともに、新規事業創出や企業イメージ向上、人材獲得といった効果をもたらすことが期待されています。一方、経営者にとっては本業との整合性を見いだす難しさがあります。

同協会ではSDGsと経営を両立させる観点から、会員銀行の行員や取引先向けに啓発パンフレットを作成しています。例えば、取引先向けパンフレットでは、各目標に取り組むことのチャンスとリスクを分かりやすく解説しています。再生可能エネルギーの利用や省エネを推進する目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」や目標13「気候変動に具体的な対策を」に取り組むことで、環境を重視している企業との取引チャンスが増え、事業成長機会につながる可能性を記しています。



取引先向けパンフレット

また、「人権・労働」や「環境」「製品・サービス」「社会貢献・地域貢献」「組織体制」の5つのテーマごとに、自社の取り組み状況を把握するためのチェック項目を盛り込んでいます。

■【取組例2】古民家再生支援でSDGs達成に貢献

同協会の特設サイト「古民家等歴史的資源の活用支援」では、地方銀行の古民家再生ビジネスを取りまとめ、これまで39の事例を公表しています。

空き家や老朽化問題を抱える古民家などの伝統的建物を、レストランやゲストハウスなどの地域再生の核となる観光資源とすることは、旅行者の増加、地域雇用の創出、Uターン者の若者の増加といった地方創生への源泉として注目されています。SDGsの目標8「働きがいも経済成長も」や目標11「住み続けられるまちづくりを」の達成に貢献することにもつながっています。地方銀行はこのような取り組みに対し、資金面にとどまらない様々なサポートを行っています。

■【取組例3】地方創生の多彩な事例を紹介

同協会は、地方創生に関する地方銀行の取り組み事例として、「想いが動かす地方創生」を特設サイト「地方創生事例集」において公表しています。事例は、新たなアイデアで地域の観光資源を再創造した「観光振興」、公共施設に新たな息吹を吹き込んだ「公共施設利活用」、こだわり抜いた高品質の農産物を生み出す「農業活性化」、移住・定住の促進を通じてコミュニティの未来を描く「移住定住」の4つのテーマで構成されています。

地方銀行は、地方の魅力発信による活発な交流創出、地域資源を活用した新事業創出など、地方の自治体、企業、住民が「何とかしたい」と胸に秘める想いをひとつにつなぐため、全力で取り組んでいます。



地方創生に関する地方銀行の取り組み事例集

(文責 主任研究員 米山由起子)